

まつばらたなか いせき  
**松原田中遺跡**

**湖南のくらし発見!**

平成22年度の  
発掘をPlayback!

2つの調査区からは、それぞれむかしの田んぼと住居跡を確認しました。



国土地理院1/25000地形図「鳥取南部」より

**田んぼの調査(1区)**

弥生時代から中世、中世から現代へと田園風景が  
連綿と続いていることが分かりました。



中世の田んぼ

弥生時代前期の溝

弥生時代の田んぼ

溝の中からみつかった作りかけの鍬

**住居跡の調査(2区)**

1区の東側にあたる2区からは、古墳時代の竪穴住  
居跡がみつかりました。



竪穴住居跡

円形にめぐる溝  
(土器がたくさん捨てられていました)

土器だまり(弥生時代から古墳時代)

長い年月を経て・・・



土器の破片は足の踏み場もないほど  
広がっていました。

弥生時代から古墳時代の数百年、この場所で生活した人々は  
同じようなとるに何度も柱を立てたり、穴を掘ったりして  
いました。調査が終わると穴ぼこだけになりました。

**鳥取西道路の**

**遺跡を掘る!**

第23号 2011年3月22日

昨年調査をした高住平田遺跡  
で、木の板を削って、烏帽子をか  
ぶった人の横顔を表現した木製品  
がみつかりました。

この木製品から、高住地区のど  
のような歴史がみえてくるので  
しょうか。



- ① 本高弓ノ木遺跡 (鳥取市本高内地内)
- ② 宮谷26号墳 (鳥取市嶋内地内)
- ③ 高住平田遺跡 (鳥取市高住地内)
- ④ 松原田中遺跡 (鳥取市松原地内)

**横顔を表現した木製品**

この木製品は、人の災いを取り除くおまじな  
いに使われた人形代と考えられます。

平安時代終わりから鎌倉時代(約700~  
800年前)につくられたもので、首より下は  
折れて失われています。

烏帽子には、いくつかの種類がありますが、  
この人形代では立烏帽子の形につくられていま  
す。立烏帽子をかぶった人物が、都のようすを  
描いた絵巻物に登場していて、その絵と人形代  
を比べると、烏帽子の形やかぶり方がそっくり  
です。顔の特徴もわかるような丁寧な作り  
で、特定の人物を表わしたのかもしれませんが。

立烏帽子は、都では身分の高い人(貴族)し  
かかぶることができないものとされ、人形代は  
貴族を表わしたものとみられます。

これらのことから、高住地区には、京都から文化や情報がもたらされていたと考えられ  
ます。もしかすると、都から来た貴族がこの周辺にいて、ここでおまじないをしたのかも  
しれません。



高住平田遺跡で  
みつかった人形代  
(破線は推定)

絵巻物に描かれた  
立烏帽子をかぶる人  
(『伴大納言絵詞』から引  
用・加工)

(財)鳥取県教育文化財団  
調査室  
美和調査事務所

〒680-1133  
鳥取市源太12番地  
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL: 0857-51-7553  
FAX: 0857-51-7550  
メールアドレス:  
matsuik@pref.tottori.jp



鳥取県立博物館の「歴史の窓」のコーナーで  
本高弓ノ木遺跡の速報展が開催されます。

現存する国内最古の「土のう」をはじめとする  
貴重な出土品が展示されます。ぜひお越しください。

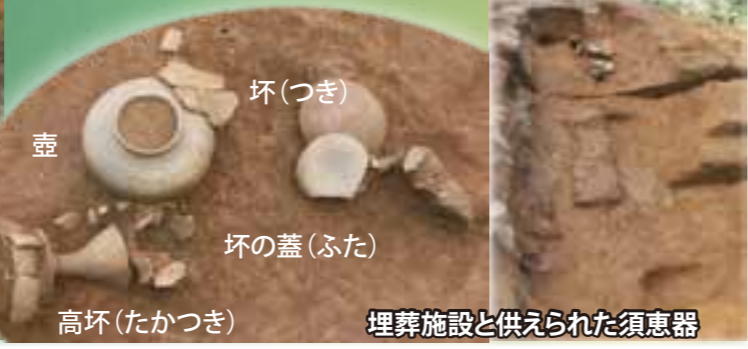
展示期間: 3月29日(火)~5月29日(日)  
(4月4日(月)、25日(月)は休館日です)



もとだかゆみのき いせき  
**本高弓ノ木遺跡** **今年も大発見!**  
 平成22年度の発掘をPlayback!



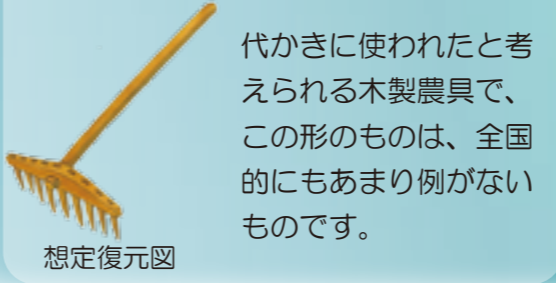
みやだに こうぶん  
**宮谷26号墳** **長大な埋葬施設!**  
 平成22年度の発掘をPlayback!



たかずみひらた いせき  
**高住平田遺跡** **珍しい遺物が続々!**  
 平成22年度の発掘をPlayback!



高住地区で初めて本格的な発掘調査を行いました。県内ではあまり例がない遺物がいろいろ出土しました。なかには、貴族との関わりをうかがわせるものも・・・(トップページ参照)。



県内で5例目になる銅印が古代の地層から出土。役所や寺院、貴族邸宅などでしか使われないもので、印面は「木」と読むことができます。